

学校探訪レポート

～先生は、みんなのパーソナルトレーナー！寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたち一人一人の個性に寄り添い、その可能性を最大限に引き出す「パーソナルトレーナー」としての先生方の姿を追う本レポート。今回は、3年5組で行われた遊馬先生の道徳の授業(教材名:「夢へのステップ 大谷翔平」)を参観しました。大谷選手が高校時代に実践した目標設定シート(マンダラート)を題材に、「最高のクラス」をめざすための具体的な行動を紡ぎ出す子どもたち。洗練された時間管理、対話を深める板書、そして最新のICT活用が融合した、まさにプロの「思考のコーチング」と呼ぶにふさわしい素晴らしい授業の様子をお届けします！

◆ 「キーワードの見える化」が生む、深い思索と対話の安心感

遊馬先生の授業が素晴らしいのは、子どもたちの思考を決して置いてきぼりにしない丁寧なステップ設計です。まずは「個人活動」でじっくりと自分の考えを形成し、それを「グループ活動」で共有し、最終的に「学級全体」へと広がっていきます。段階を踏むことで、誰もが安心して自分の意見を表現できるよう配慮されていました。そして、この対話を強力に支えていたのが、遊馬先生の板書です。先生は教室内で行き交う子どもたちの多様な発言を漏らさず丁寧に拾い上げ、大切なキーワードを瞬時に黒板へと構造化していきます。言葉が「見える化」されることで、子どもたちは友達の意見の本質を視覚的に理解し、そこから自分の考えを深めていくという、素晴らしい学びの好循環が生まれていました。

◆ リアルタイムの「可視化」と、一人一人に寄り添う細やかなサポート



展開の後半では、最新のデジタル技術(ICT)を見事に使いこなした圧巻の授業マネジメントが光りました。子どもたちは「最高のクラスにするために自分たちができる行動」を、Excelのファイル共有機能を使って班ごとに同時編集していきます。これにより、他の班が今どのような素晴らしいアイデア(「あいさつをする」「メリハリをつける」など)を考えているのかが、リアルタイムで手元の端末から全員に「見える化」されます。

そして何より印象的だったのは、この最先端の活動中における遊馬先生の「温かい伴走」です。先生はご自身も端末を片手に教室をくまなく歩き回り、全グループのExcelの進捗状況や生徒たちの表情を把握されていました。手が止まっている生徒がいればそっと横に寄り添い、こまめに活動支援の声をかけ、一人一人の思考を丁寧に引き出していきます。テクノロジーの利便性に頼り切るのではなく、泥臭いほど細やかな個別サポートを徹底するその姿勢は、まさに子どもたちの心に寄り添う「パーソナルトレーナー」そのものでした。

◆ おわりに

大谷選手の高い志を学ぶ道徳の時間を、単なる「お話の読み込み」に終わらせず、ICTと対話を駆使して「今日からの自分たちの具体的な一歩」へと見事に昇華させてくださった遊馬先生。一人一人の声を大切にする細やかなコーチングがあるからこそ、子どもたちは自分自身を律し、他者と協力してより良い集団をつくろうとする「強い意志と豊かな心」を健やかに育てています。温かい情熱に満ちた日々の授業づくりに、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます！